

第7回加西市未来の学校構想検討委員会

日時 : 令和4年7月27日(月)
14時01分~16時18分
場所 : 加西市民会館 3F 小ホール

1. 開会

2. 協議事項

○会長

本日が全9回のうち第7回目の会議となります。答申作成に向けて、まとまった議論ができたかと思っております。本日は協議事項が一つで、前回までの協議を受けて、今回と次回の2回で、加西市未来の学校構想の答申案について審議を行います。

9月の検討委員会は市長への答申書を提出する日とするため、実質の審議は今回と次回の2回でやっていきたいと思っております。事務局から各委員に答申案が、郵送されていると思っております。答申書案を当委員会で最終的に仕上げていく作業となりますので、委員の皆様方には忌憚のないご意見と、また、円滑な議事進行にご協力いただければと思っております。それでは、事務局より答申案について説明をお願いします。

○事務局(教育総務課)

お手元の答申案に基づいて説明します。最初は鏡文で、9月に予定しております文章です。次に「はじめに」にです。令和3年10月11日に加西市長から諮問がありました。一つは加西の教育のありたい姿について、二つは小中学校の再編についての基本的な考え方について、三つは地域との連携による学校づくりについて、四つはその他必要と認められる事項について、これまで検討委員会と視察を行っております。

「加西の教育のありたい姿」については、教育振興基本計画の基本理念に基づき、愛と信頼と希望を基盤に学校園、家庭、地域社会が一体となり、市民全てが関わる加西の教育に取り組むべきことを話し合いました。加西市では少子化など教育における地域の課題を克服するために、STEAM教育の導入など新たな教育ビジョンの下、地域社会全体で子どもたちを育てる仕組みづくりを行っています。加西の子どもたちの未来を見つめた議論を通して、改めて地域に根差した学校とは、子どもたちの心のふるさとであり、子どもたち1人1人が主体性を持って自分の良さや可能性を認識し、他者を価値ある存在としながら多様な人々と協働し、豊かな人生を切り開くための力を育む場所であることを確認しました。

「小中学校の再編についての基本的な考え方」については、加西市の将来を担う次世代型人材の育成のために、それぞれの学校が特色を持った教育課程の編成、教育環境の整備等を進めていくことが重要であることを確認しました。特に小規模化している学校の課題の解消・緩和を図るために、小中学校の再編案として二つの方向性を示しながら、議論を進めていきました。議論の中でも子どもや保護者のニーズに応じたきめ細かい指導、支援が受けられるような指導体制や施設面についての工夫を求める意見も数多く出ました。

また、アンケート結果に見られる通学方法についての不安の声や要望に対応するため、その他必要と認める事項として、送迎バスの運行に関する提言をまとめております。小学校児童数の推移予測に基づき、今後の複式学級への対応についてはガイドラインを定めました。

「地域との連携による学校づくり」については、保護者や地域住民の意見を聞き、それを反映していくために、令和5年から加西市で導入を予定している学校運営協議会(コミュニティ・スクール)を活用していくことを確認しました。

コミュニティ・スクールを展開することによって、新しい学校づくりの計画段階から、積極的に児童生徒や地域住民の意見を反映する必要性があることを提言しました。さらに、地域との連携による学校づくりについて先進的な取り組み、実績を持つ、三重県松阪市立鎌田中学校を教育委員とともに視察しました。

これらの改革を実現するために、加西市教育委員会の強力なリーダーシップの下、各学校教職員が一体となって取り組むとともに、家庭や地域の理解、また、財政負担を含めた市長部局の理解と支援が必要です。本答申を基に市民や関係団体の理解と協力を得て、加西の未来を担う全ての子どもたちの可能性を引き出し、予測困難な未来社会に対応することのできる学校づくりの実現が図られることを期待します。

以下、諮問の内容に応じて第1部から第4部に分けています。1頁は第1回の会議、あるいは素案を提示した第2回の会議で議論いただいたところです。1.教育のありたい姿、2.教育の基本理念「郷土を愛し豊かに未来を拓く人づくり」、3.加西市の次世代型人材育成ということで、素案で示した図1、2を掲載しております。

3頁は現状と課題について、第4回の会議に提示しました資料を基にまとめております。以前から単学級は増えていきましたが、単学級を構成する学級の児童数自体が年々減少していることを説明しています。(1)学級数と単学級の状況、(2)教職員の状況、(3)部活動の状況ということで5頁までとなっています。(4)は施設の長寿命化計画で、これは初回に触れた内容で、現状の課題として記載しています。

6頁は、(1)学校規模の適正化に向けた二つの方策として、素案を基に、中学校と小学校それぞれに異なる方策で小規模の課題の解消・緩和を図るというものです。素案を提示した2回目、3回目の会議の内容をまとめています。

7頁は中学校の再編です。前回到説明させていただいた内容のため、説明は省かせていただきます。中学校の再編について①2校統合案、②2校案の根拠、③2校の組合せ、④東西案、南北案と比較して、最終的には素案の2校案でいきたいということでまとめております。9頁の⑤は、魅力ある学校づくりということで、前回の視察を受けて、学校を新しく整備する際には、生徒が通いたい、あるいは保護者や地域の住民が通わせたいと思うような、機能面、内容面もみんなが誇れる学校をつくってきたいという提言がありました。新校舎建設に当たっては生徒や保護者、地域住民、教師などの意見を多く反映できるものと考えていきたいと、そのように要望させていただいております。

(3)は小学校の再編について、これも素案のとおりですが、学園構想は第5回の内容で、学校の規模に応じた小中の連携の資料を9、10頁にまとめております。11頁は前回の会議で提示しました複式学級への対応、地域協議会の設置についてまとめています。

12 頁は地域との連携による学校づくりで、学校運営協議会(コミュニティ・スクール)の設立、地域学校協働活動、学校と地域との連携活動に対する評価をまとめております。13 頁は第 1 回のときの図を挿入し、14 頁は松阪市の視察報告を掲載しています。

15 頁はその他必要と認められる事項で、第 6 回の内容ですが、中学校の送迎バスの運行に関する試案を表 10 に考え方をまとめています。最後は委員名簿です。

以上が答申案で、今回と次回で皆さんに協議いただきまして、8 月に完成した形のを 9 月の会議に提出いただけるように進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。説明につきましては以上です。

○会長

事務局から答申案全体について説明をしていただきました。この答申案を審議するに当たり、第 1 部から第 4 部まで部ごとに区切って委員の皆さんからご意見を頂きたいと思います。まずは、答申案のこの鏡文と、それから第 1 部について、お気づきの点ございましたらよろしくお願いいたします。

○A 委員

1 頁の第 1 部、加西の教育のありたい姿のところは、一番大事なところだと思います。「20 年、30 年後の未来の加西市の大人たちをどう育てるのか」云々、「どんなまちをつくっていくのか」という議論と一体のものであると言える」という大変良いことが書いてあります。しかし、私には総花的で別に加西市でなくても、これを小野市あるいは北海道の何市にしても、どこでも通るような、どんな人間をつくっていきたいのかというところが見えてこないと思います。

どのような人間をつくらうとしているのかというところが、一番大事なことだと私は思います。その後、AI とか、今の新しい技術を身につけるとか、外国語であるとか、グローバルな社会に対応できるといったところは、下の段階で入りますが、一番は加西市の教育として、どんな人間をつくらうとしているのかということが、これでは私には見えてきません。他の方のご意見も伺いたいのですが、その辺りがあまりにも総花的な、どこにでも通用するような話というのは要するに中身がないということですから、そんな答申になってしまうのではという思いです。

加西の子どもたちの特徴というか、そういったものを我々も「あ、加西の子はこんな子だな」とか、我々も加西の人間ですけど「加西の大人はこんなんやな」とそういうところを自覚している部分。それから、他の地域から見てそう思われている部分、自覚と他の人が見ている部分はまた違います。何を伸ばして、何を残して、こういうところは直していったところが出てきて、こんな人間をつくっていくということが出てくるものですが、それが見えない。

私は加西に生まれて育ちましたが、加西の人は穏やかな人が多いです。素直で穏やか、親切な人も多いです。加西市の職員とか加西病院の看護師さんは、他市から来ている職員とかそういう人に聞きましたら、加西市の福祉関係の職員とか、いろんな方が大変親切だと。姫路市や他市に比べても、もう一手間をかけてくれる。他はそんなに親切ではないと言います。他市か

ら勤めに来ている人に聞くと、市の職員はとても親切で、きめ細かく対応してくれるということを、これはお世辞ではなく本当に言っています。加西市の看護師さんも、加西病院は今、規模を縮小しましたが、以前から看護師さんが親切で有名な病院でした。感じがいいということです。だから、加西市の場合は、穏やかで素直で親切で、そして、真面目で全体に無難であると。

ここまで言うと、すごく素晴らしくて、これは加西市のいいところだと思いますが、その反面があります。その反面に個性がない、面白みがない、これといったものがない。

面白い人が一定数はいますが、これという人物もあまり出ない。いても、加西から出ていってしまう。これは最大の問題点だと思います。せっかく、穏やかで親切で真面目というところがありますが、その反面として要するに面白みがない。せっかくいいものを持っているので、その部分を残したままのいいところと、そして、面白い人物がいても、加西を出ていかなくてもいい、加西をもっと人生の場として過ごしてみようという思いができるようなものに、私はできると思います。十分できる条件を持っていると思います。そういうものを育てるための、これから10年、20年先の学校づくりというそういう視点で、この答申を上げていただきたいと思います。

○会長

第1部のところで、どういう人間をつくりたい、育てたいのかということに関して、もう少し踏み込んだ記述があってもいいのではないかとことです。

○OB 委員

今、話があったように私も、どこの市町が書いても、同じことが書けるだろうと正直思ったのと同時に、答申の初めの部分っていうのは、どの答申もこんな形で書くものと思って、細かくそこまで追求しようとは思っていませんでした。

ただ、文面の中で下から一つ目のところで、「未来の加西市を次世代が希望をもって『引き受けて良かった』と思えるようにしていくこと」と書いてありますが、これを初めて読んだときに「引き受けて良かった」というのは、何かお荷物を引き受けるような感じがして、もう少しいい表現がないかと私なりにも考えていました。「次世代が希望を持って未来の加西を担いたいと思えるような」という表現の方が前向きでいいのではと思いました。このままでいくと、何かすごく重たいものを子どもたちに背負わせてしまう文面になるので、そのように表現を変えられたらいいと、私の個人的な意見です。

○会長

事務局いかがでしょうか。

○事務局（教育総務課）

その方が積極的でいいと、そのように伺いました。ありがとうございます。

○OC 委員

私もその部分が引っかかって、ニュアンスとしては弱くなるかもしれませんが、「住んでいて良かった」とか、「住み続けて良かった」みたいな方が納得できるのかなと思った次第です。

○会長

その辺は少しアレンジして入れられると思います。

○A 委員

「引き受けて良かった」とか「住んで良かった」みたいな弱い表現より、「加西市に住みたくない」とか、「小野から引っ越しして来て加西に住んでやろうぜ」というぐらいの気持ちがないと、一番初めにこれがないと腰が引けて、こんなものを出して本当に何になりますか。1 頁であれば、決意表明でしょう。選挙で言うと出陣式です。そのときに「もしかして何とか受からせてもらったら」みたいなことを言ったら、候補者は落ちます。「俺、絶対受かるぞ」、「皆さんのために働くぞ」ぐらいのことを言わないと。ここは大幅に変えるべきだと、私は思います。

○事務局（教育総務課）

この部分は、これまでの議論の中で各委員さんのご発言とか考え方とか、コメントがあったものをまとめて、形にしています。今までの議論とはまた別で、答申に入れる形もあるとは思いますが、ここは、ありがたい姿について、皆さんからご議論いただいた中でまとめている部分です。こういった内容で今までの話し合いがあって、ここはすごく大事なところと思い、そのコメントを入れたいと思い、このような形でまとめています。

また A 委員には、これまでのご自身の発言の中で、この文章に代わってこういう文章がいいというところがありましたら、そこについてはご提案いただけたらと思います。

○A 委員

この場の委員会で今、私は言っています。今提案しております。何かそういう「引き受けて良かった」という話は、あまり覚えがありませんが、とにかく私の意見はこれでは弱すぎる、もう一度考えてくださいというところです。

○D 委員

A 委員が言われた件で、他市の人に加西について聞くと、「閉鎖的で少人数を基本省く」みたいな印象があります。私も加西出身ですが、なかなか受け入れてもらえないという悪いところもあると思いますので、「子どもたちが多様性を認め合う」とか「支え合う」という言葉を入れてもらえたら、一つの魅力になると思います。

○E 委員

私も D 委員と同じ考えです。この答申のところで A 委員が言われた「加西はこんな人」って入れるのは、例えば、ここで「閉鎖的で」という言葉を入れたときに、それを見たら、「こ

れからはこう直します」っていうよりも、逆に「加西って閉鎖的なんだ」と思われる部分もあって、必ずしも全員が閉鎖的ではありませんし、なかなかその捉え方というのはすごく難しいと思います。

D 委員が言われたように「多様性」というのは、今本当に必要であるそういった言葉を含んでいると思うので、閉鎖的だけど多様性っていう言葉を入れることによって、閉鎖的な部分もあるかもしれないけど、そういう多様性、いろんな方を受け入れる寛大な市であると感じるのではないかと思いました。

教育関係の方がここにおられるので、そういった先生方は加西の教育についてどのようにお考えなのか、A 委員もこども園の運営に当たって、加西市の子どもたちにどういった教育方針をされているのか。また、中学校の先生、小学校の先生にも聞ける時間があるのであれば、そういう思いっていうのを聞きたいと思います。

OA 委員

私が言ったのは、加西市の子どもたちの特徴、弱み強みとかそういうものを分析して、何も閉鎖的であるとか云々という具体的な言葉を私は使っていませんし、そのようなものを挙げなさいと言っているわけではありません。閉鎖的と言ったら、どこでも日本中は閉鎖的です。

そうではなくて、地域には強みと弱みがあるはずで。強みとしては、こういう人柄が穏やかで、素直で従順で真面目なところ。その反面、面白みがなくて個性が弱いという、そういう部分もあるということを行っているわけです。それで、ここは強みで、ここは弱みということをはっきり言わないと、自分が何者か分からなかったら、何にもできないわけです。何も弱みがない町、人っていうのは、何も強みがない。要するに何も無いということなので、ここはすごくいいところだけど、ここはできていないところをもうちょっと言葉を磨いて洗練された文章で表現すれば、加西の特徴、加西市の持っているものと持っていないものがはっきり出て、それに合わせて教育をやっていくことができると申し上げています。

「多様性」とかいう言葉は、誰でも多様性って言っています。国連の運動でも多様性って言っています。多様性って言われて刺さらないと思いません。そういうことではなくて、私が言っているのはちょっと今、話がずれてきたなと思います。そういうことを言っているではありません。

○会長

「閉鎖的」っていう言葉を A 委員は使われなかったですけども、E 委員は加西市民の特徴づけというのは非常に難しいことを指摘されたと思います。言葉が独り歩きしますし、いろんな捉え方やいろんな市民がいますので。

OA 委員

例として私は個人的なことを申し上げただけです。

○会長

なかなか一般化して加西市の市民の強みはこれで、弱みはこれで、というのを書くのは、難

しいのではないかというご意見だと思いました。

○A 委員

具体像が出てこない。

○会長

そこをおっしゃることも確かに分かります。ただ、加西市だけが突出して兵庫県や日本の中で特別な教育をやっているわけではないといえますか、一般化できる人間を育てようとはしていますので、1部で言ったらこの右のページですね。STEAMのところは、加西市の教育としてやろうとしているという、ここは強み弱みを踏まえた上で書いてもらっていると思います。この辺りはなかなか他の市町では無い部分とは思いますが。

○A 委員

加西市未来の学校構想とうたいながら加西市独自のものがありません。それは日本の教育は全部加西が堅持するとか、そんなことではないと思います。それぞれ北海道は北海道、沖縄は沖縄、四国は四国で違うわけです。同じ四国でも、山の中と都市部では違います。全部それぞれが個性を持っているので、個性に合わせた教育が必要で、土地がやっぱり個性を持っているので、そのためのこの加西市の未来の学校構想と違いますか。日本の未来の学校構想とは違うと思います。ここはインパクトが弱すぎるのと違うかなと私は言っているのです。一番最初からこんなインパクトが弱くていいのですかということです。

○会長

確かにもう少し工夫できる場所はあってもいいかと思いますが、今、私は、D 委員が言われた多様性というのは、この会の1回目からずっと話をしてくる中で出てきたキーワードだと思っています。少子化に伴って子どもの数が減る、学級数が減る、いつもいる先生も減るっていう中でいかに多様な人たちと学習するか、生活するか、ということが大事だという点は、多分共通理解としてほぼあったんではないかと思っています。1頁の下から5行目に「多様な人々と協働し」という、「多様」という言葉はここ1か所ですけど、多様性を尊重して、多様性を生かした教育を行うというところは、もうちょっと理念として見えるように書いていただけたらいいのではと思いました。

地域のところは、かなり出てきているかなと思いました。多様性の部分は本当に大事な理念だと思います。ただ、多様性と言っても、加西市に限ったことではないのでは言われますが、加西市では特に今回の議論のきっかけが、適正規模に達しないという「多様性の欠如」という言葉が、途中で出てきていますけども、それを何とかしようではないか、というのがこの議論の出発でしたので、この頭には多様性という言葉を入れるのは適切かなと思います。

○A 委員

「多様性」を入れる、入れないということではなくて、問題がちょっと違う方向にいつていると思うのですが、もうちょっと具体像を出したほうがいいのではないかとっているわけです。

それで、今私がこう提案したとか言いました。私の疑問ですけど、それに関して、他の方の意見を聞かせてもらわないと、会長が自分の意見を言われて決めるのは、私はちょっと疑問に思います。

○会長

それでは今そういう意見が出ていますけれども、いかがですか。

○F 委員

私はこの書類を頂きましたときにすごく考えさせられました。私たちがどういうふうに関わっていくか。つくり上げられたものに乗っていくのではなくて、自分たちが意見を出し合って、考えを出し合って関わっていく、今本当に大事な時期に来ているということを本当に優しい言葉で、よくいろんな会議に今まで入りましたけども、「加西ならではのものをらせ」とかよく問われます。加西ならではというのは何だろうか、それはそのときそのときに生きてきた者がいろんな考えを巡らしてつくり上げていく、その結果のものだと思います。

今、私たちがどんな教育を求めているのか。少子化というのはもう全国的なものです。その中で加西市が自分の郷土を愛して、どのように関わり、いろんな団体があり、いろんな活動がありますけど、加西市の中で充実して子どもたちに関わり、地域をつくり、そういうことで答えを出していくのが私たちの役割で、市民一人一人、また、交流してこられた方一人一人の活動によっても生まれてくると思います。

私には答えが強く出ないということは、それだけ私たちはいろんなことを思い巡らし、活動していかないといけないとすごく問われていると思って読ませていただきました。以上です。

○会長

今おっしゃたようなことを踏まえて、この第1部はもう少し書きぶりを変えるほうがいいということでしょうか。それとも変えていない状態でいいということですか。

○F 委員

私は表現の仕方が弱いというご意見もありますけども、私たちにとって今一番大事な文章を与えられたといいますか、いいと思っております。

○会長

ありがとうございます。G 委員、お願いします。

○G 委員

私はまずこれを頂いたときに1点すごく不思議に思ったのは、何でこの加西の教育の在り方をやろうとしたのかという社会背景がどこにも書いていないということです。

もちろん少子化は当たり前なのですが、加西の場合の人口減の中でも問題なのは、若いところの女性が、大分出ていることですよね。出ているのと入るときを計算すると、出ていく。それははっきり言って兵庫県全体の問題ですけども、何か社会背景、なぜ、これをしなければ

ならなかったのかというところがどこにもない、ということがすごく不思議に思いました。

それと、もう1点は当初、会議を始めた頃に先生方が大変お忙しい中、子どもの分析をされていましたよね。つまり現状です。子どもたちの社会的なニーズと今、子どもたちの現状はこうなので、加西の20年後、30年後の未来のことを考えたときにこの在り方検討をしますという論理で話が進んでいたと思います。その現状も出てきていなくて、だから、A委員が言われるように、「これはどこでも通じる話ではないか」という発想も出てくるのではと私は思っています。何か細かい文章というよりも、構成を考えていただいたら、すっきり入ってくる部分もあるのではないかと考えています。

それから、多様性という考え方ですが、さきほど会長が言われたように「多様な人々と協働し」というこの表現しかなくて、その「多様な人々と協働し」と言ったときに、皆さんこの多様性って、何を頭に浮かべるだろうと思います。まずぱっと出てくるのは外国人ではないかと思えます。外国人労働者の方が圧倒的に増えてきているということもありますが、多様な人と協働するという「多様性」ではなくて、多分、D委員やE委員が言われているのは、多様な子どもたちに対応する教育をしてほしいということだと思えるのです。これ視点が逆ですよ。そういうことですよ。自分が言っていたことは分かっていたと思います。その視点は明らかに立ち位置が違うと思います。それが2点目です。

3点目は、右側に STEAM の教育のことが書いてあって、次世代型人材育成のことも書いてあるんですが、「これをやる、だから、学校はどう変わる」と、「学校はどう変わる」というところがいつも私は疑問に思っていて、「具体的に学校がこれによってどう変わって、地域とどう関わって、そして、生涯学習という考え方の中で子どもたちはこう育っていきます」というような具体的な姿が、いつもちょっと見えにくいなと思っています。ここに例えば「学校はこう変わりますよ、地域とこう変わっていきます」ということがあれば、より具体的になっていくと思います。よく考えると、その議論は出てなかった、ということもちょっと思っています。以上、三つです。ありがとうございます。

○会長

私もどれぐらいのボリュームで書けるか、社会背景というのなかなか細かく書き出すと、多分切りがないというか。しかし、その社会背景の部分、それから子どもの現状、それらを踏まえて課題としてこんなことがある、というような書き方にしてはどうかということです。

それから、右の2頁の STEAM 教育でどう変わるかというところまで、最も図の中でこれを表現されようとしているんでしょうけども、少し言葉で説明があればいいかなというところでしょうか。その社会背景や子どもの現状というところで、A委員が言われる加西市の教員がこのような理解もあるという部分も、限定的なことしか書けないかもしれませんが、加西の子どもたちや、また市民のことについても少し書けるだろうというところですかね。

頭の部分は確かに大事なところで、理念をぱっと打ち出す。2部以降は具体的な対応策ということになりますが、理念のところをもう少し書けたらということでしょうか。

OH 委員

最初に議論いただいたところは、私の発言から取っていただいた部分があるのかと思っています。1頁1番、教育のありたい姿のところ、私の発言の趣旨としては、よくこういう教育に係る議論というのは、子どもたちに必要な力の話だけをしてしまうことがありますが、我々大人の在り方と表裏一体だということです。

私の発言した意図としては、子どもたちが力をつけていくことのサポートも私たちの重要な責任ですし、もう一つは、私たち自身が次世代に引き渡せる社会とか、地域をつくっていく責任もあるということをお願いしたつもりでした。そのような意味で、「引き受けて良かった」よりもっと前向きな言葉が使えるというのは、それだけ大人側が引き受けていくというか、これだけチャレンジしていくという意図だと思うので、私も賛成です。そんな加西市であれば素晴らしいと思うし、今、委員さんの発言にもあったように、きっと外から来られた方も、もともとご出身の方も自信を持って住む町になるのかなと思います。

それから、一つ気になったところとして、答申の表紙及び「はじめに」の最終段落は、ほぼ同じような文章が使われています。それが教育のありたい姿を実現するためには、教育委員会の強力なリーダーシップ、各学校、教職員が主体者という書き方になっていて、家庭とか地域とか市長部局は協力者というように位置づけられていると感じました。学校教育という制度を取り上げたときはそのとおりの権限と責任関係であると思いますが、他方で、この答申の中にも市民全てが関わるという、そこで教育のありたい姿を書かれているかと思うので、もう少し家庭や地域やその他の立場の人たちも、責任を引き受けていく主体者であるという表現ができていいのではないかと思います。

あくまで参考ですが、今の学習指導要領の前文に、「児童が学ぶことの意義を実感できる環境を整え、一人一人の資質・能力を伸ばせるようにしていくことは、教職員をはじめとする学校関係者はもとより、家庭や地域の人々も含め、様々な立場から児童や学校に関わる全ての大人に期待される役割」という文章があり、ある程度その前提に立って、ここでの議論も示されていると思うので、そこが文章にも反映されるとよろしいかと思います。先ほどのG委員の発言にもあったように、これによって学校と地域の関わりがどう変わっていくということも、踏み込んで書けたらよりいいのではないかと思います。

○会長

ありがとうございます。今のご意見については、事務局いかがですかね。

○事務局（教育総務課）

A委員の最初の意見も、G委員のお話をお聞きして、やっと理解ができたところもあります。その辺りも書き足らない部分があるかと思いますので、H委員からの指摘も含めて、文面を確認させていただきたいと思います。

○会長

A委員いかがですか。

○A 委員

時間がありませんので、委員の方全員に意見を伺いたいのですが、まだこの先があり、無理なようですが、G 委員も言われたように、ここは表紙というか、理念で一番大事なところなので、ここを一番最初に読みますよね。ここで何か前にどこかで読んだような言葉ばかりでしたら、もう市長も読む気がしなくなります。

これを市民にも配られ、読まれると思いますが、ここを見て「加西の未来の学校って心地いいこと言っているな。だけど、どっかで聞いたことばかりや。加西のどこが出てくるねん」となると、もう読む気がしなくなりますよね。そんな答申でいいのかというように私は申し上げているわけです。

もうちょっと具体性のある魅力があって、本当は加西がこういうところもあるけど、こういうところもあるし、こんなところを伸ばしていくところを加西市の未来として出すべきじゃないかと。それが本当に地方自治で自分たちのことは自分たちで決めるということじゃないですか。国や県に決めてもらうことじゃないと思います。

○会長

教育長お願いします。

○教育長

A 委員が言われることは非常によく分かります。担当者も自分たちで作文することはできないので、会議の中で出てきた言葉を、なるべくまとめるようにしている。

例えば、私が自分の意見をとうとうと言わせていただけるのなら、それはばーんと書きます。しかし、そこは委員会に諮問する文章なので、やはり皆さんの合意が得られるようにということで、担当者も悪い言葉で言えば、事なかれになっているのか、穏やかに書いているということはあると思います。今日、それを言っていただいたので、もう少し踏み込んで書くとしますので、よろしくお願いします。

○会長

あと、細かいことですが、「はじめに」の3段落目3行目の「特に」以降の「小中学校の再編案として二つの方向を示しながら議論を進めていきました」という文章についてです。ここは頭出しのところなので細かく書く必要はないですが、小中の二つについて議論した要点を簡潔に書いておいてもよいのではないかと思います。

「二つの方向性を示しながら」と読むと、私たちはもう議論を知っているので「ああ、あのことだ」と思うのですが、初めて読む方に対しては、当然、本論の中で論じてはいますが、6頁に書かれている素案の小中のことはごく簡単に書かれてもいいのではないかと思います。

それでは他にもあろうかと思いますが、最後、通して補足があれば意見をいただく機会を設けますので、第2部に移りたいと思います。3頁から11頁、これが一番今回の答申の実質的な中身になるところです。これまで委員会で揉んできたものを中心にまとめています。この第2部についてご意見等があればよろしくお願いします。

○A 委員

前回の委員会で、中学校の統合案はほぼ教育委員会の素案どおり、8つの小学校を1つの中学校に、加西中、善防中、泉中を一つにまとめて、現在の北条中学校はそのままに置いておくということで、ほぼ多くの委員さんがその方向でしたので、それに決まったものです。それを今さら別に覆そうとは思いませんが、前回その場にいなかった委員もおります。例えば G 委員とか I 委員は、仕事の都合等でそのときにいなかった。評決も取っておりませんし、何対何で決まったということも決まっておりませんし、そして、一番大事なことを決めるときにいるべき委員が、残念ながらその場にいなかった。それをそのままにしておくことはやっぱりおかしいと思います。

この場に今二人が来ておりますので、中学校の統合案についてももう大勢は決まっておりますが、二人がどんな意見なのかということをお場で出していただくべきだと思います。会議が完全なものになるためにはその必要があると思います。いなかったから、意見を聞かなかったというのはおかしいと思いますので。

もう一つは、当日私が南北2中案を推していたわけですが、大きな校区をつくるのは反対と申し上げておりましたが、そのときに明確に反対をしたのは私と J 委員だけです。この二人ははっきりと反対しました。あとの方はほぼ賛成されていたと思います。

大事なことです。反対意見として附帯意見をつけていただきたいと思います。これは加西市にとって重要な決定をしていることです。それから、リスクが大きいものです。間違いなくリスクが大きいので淡々と決まるより、激論があってしかるべきだと思います。何か流れで決まっちゃったというのはおかしいと思います。

アメリカでも、ルーズベルト大統領だと思いますが、全員一致であれば、それは決めない。何かおかしいと。反対意見がないと不健全だと。それで、全員一致はみんなが意見を十分に議論できていないか、分かってないのではということで、全員一致は採択しなかったようです。そのように決まってしまうと反対意見の効用はあると思います。

私も J 委員も真面目に反対しています。真摯な気持ちで反対しています。嫌がらせを言ってやろうとか困らせてやろうというのではなく、真摯に反対しているのです。だから、反対しているからには、私たちの意見もどこかおかしいところがあるかもしれませんが、この決定事項に何らかの問題が含まれているのかということは、反対意見の中に含まれると思います。だから、反対意見を建設的に使っていただきたい。真摯な反対意見ですから。反対意見がない決定事項というのは私には会議としても物足りないし、しっかりとこういう反対もありましたということで、我々も思いは一緒ですから。ただ、意見が違っているだけですからね。その辺りを明確に記載していただけたらというふうに思います。

○会長

今の提案について、いかがでしょうか。まず、前提として、前回この委員会で素案を基に答申をつくるというその方向性については、もう決定したものととして、その上で前回休まれた方の意見も伺っておきたいと。賛成反対のご意見を伺っておきたいということですけど、I 委員、

お願いします。

〇I 委員

前は都合により勝手しまして、誠に申し訳ありません。そのときに決まったということですが、統合について僕はいいことかなと、これからの子どもたちの人口推移とかそういうのも踏まえて言うと、致し方ないことなのかなと思っています。本来でしたら、今のまま子どもが増えていくというのがいいのですが、なかなか将来的にそういうことは難しいと思うので、今後の加西市のためには仕方がないことかなと思います。ただ、素案として上がっている北条中学校以外をぐるっと取り巻いてしまうという二つの中学校案というのが、A 委員と同じように僕もちょっとそれはどうかなという部分は思っています。

統合するのであれば、東西案、南北案の方が、まだじっくり来るのかなと思います。南北案及び東西案との比較という部分で幾つか出ていますが、南北案の一つ目は、「中学校の生徒に及ぼす影響の範囲が必要以上に広がることとなります」。それと、その次には「北条中学校区のように統合の必要のない学校、生徒までも分断し、巻き込むこととなります。生徒に及ぼす影響は最小限に留めるべき」、これは小学校から次、中学校はこっちですよというようにいくので、別に「分断をする」とか「巻き込む」とか、すごく怖い言い方をしている感じがして、でも、そうじゃないのかなとも思います。

小学校のときは北条東に行っても、中学校は次の新しい中学校だよっていうようになれば、ちょうど切り替わる時期になる子どもたちはそうなるかもしれませんが、これからそこに行くという子たちにとっては、「分断」とかそんな難しい、怖い言葉を使わなくてもいいのではないかと思います。別にこれは悪い部分に入ってくるのではないのではないかと思います。

あとは、人数的なところで上手に均衡を取れるよう持っていければ、僕は東西案か南北案でいいのではないかと思います。素案の北条以外ということになると、実質的に厳しい部分が大いのではないかなと思うので、端から端まで行くと、通学時間も大分かかることになると思います。統合案について僕はそれでいいと思いますが、分け方については今後協議していく必要があると思います。

〇会長

もうそれは決まっていますので、協議はもうできないです。でも、懸念といいますか、端から端まで通うというところの懸念がやっぱり大きいということで、そこは考えていく必要があるということですね。あと、事務局から「分断」、「巻き込む」というこの表現について意図といいますかね、改めて説明いただけたらいいのかなと思いますけど、いかがでしょうか。過渡期の生徒のことを主に言っているのですかね。これどうなんでしょうか。

〇事務局（教育総務課）

前回の資料をそのまま記載させていただいています。今回、この文章を新たにということであれば、検討を再度ということもあるかと思いますが、前回の形のままでということ、そのままご理解いただけたらと思います。

○会長

それでは G 委員も意見ををお願いします。

○OG 委員

前回すみませんでした。正直に言うと、私は加西で住んだこともなければ働いたこともないので、実は分からないというのが事実です。ただ、それだけに客観的に見えるかなとも思って、この答申案を見ていたんですが、私も素案の3中が一緒になって北条中だけが残るというのは、どうしても何となく違和感があります。ただ、いろんな比較で表6を見ていると、致し方がないのかなということもよく分かります。だから、前回、「私はフィフティフィティです」と言って帰らせていただいたというところですか。それで終わらせていただきます。

○会長

反対の意見も附帯意見としてというところですが、この7頁②のこの点の三つ目ですか、だから、2で言うと三つ目の中に A 委員が言われたことも若干、多分それを想定しています。「統合中学校の校区が広すぎて歪であるとの指摘もありましたが」という、ここをもうちょっと丁寧に書いたほうがいいということでしょうか。一連の反対意見も盛り込む形で書いてありますが。

○OA 委員

反対意見を今までずっと申しておりますが、私や J 委員や、今、I 委員もそう言われましたが、それをまとめて具体的に「1、こういうところ、2、こういうところ、こんな反対意見も出ていましたよ」って、この一つの文章の中に何か紛れ込んでしまうのではなくて、反対意見として、附帯意見として出していただきたい。

○会長

その辺はいかがでしょうか。

○事務局（教育総務課）

附帯意見というのは、全体の筋道がこう決まっています、けれど、こういう意見もありますよ、こういう点も留意してくださいねということでもいいかと思います。今の書きぶりによっては、どちらの意見が主のものなのか分からなくなるという心配もあります。基本的な考え方はこういう考え方ですよというのはしっかり明記した上で、ただ、なぜその意見がそうなったのかということとは、せっかく議論しておりますので、こういう議論があって、けれど、こういう考え方によってこういう形になったんですよというところを、まず、それはしっかり書かないといけないと思っています。その上で、留意すべき点ということをごどのように誤解のないように書こうかというところが、工夫すべき点だとそのように考えております。

○会長

どこでどういう形で表現するかというところも、もう一度検討していただいて、また改め

て次回提案いただくという形でお願いします。J委員お願いします。

○J委員

基本的に行政の人間なのであまりしゃべらないでおこうと思っておりますが、その中でも1点だけ僕が書いていただきたいのは、財政的な議論はされていないというところを入れてほしいと思います。私は総務部長という立場で来ていて、そういう財政的な議論がされるものと思っていたのですが、広い範囲の統合をする中で、中学校をどうするのかというところで、通学バスを運行しますという話が、僕が遅れて来たっていうのが悪いのですが、それが終わった後に来てしまったので、その議論がされました。

それはいいのですが、バスを運行すること自体には結構お金がかかります。例えば、令和2年度にコロナで夏休み期間だけバスを走らせました。僅か23日間で1,800万円以上かかっております。それを考えれば、どれくらいバスを減らして効率的にやっても、それなりの金額がかかると思います。例えば統合自体は僕も全く賛成なので統合はありきでいいと思いますが、その割り方によってはもう少しバスを使わなくて済む割り方もあると思うので、そういった場合、例えば2,000万、3,000万かかるようなお金を使うのであれば、学校の充実とか授業の充実に充てれば、もっといい学校ができるのではないかと思うので、そこはまだ議論できていないけれど、そういったことも含めて市長部局へ答申した上で「十分議論してくださいね」というような文言は入れていただければありがたいと思います。財政担当の部長もいて、もう議論も終わっているというように言われるのは、ちょっと私の立場からして心外なので、そこだけは担保いただきたいと思います。

○会長

書くのならどの辺でそれを書くことになりそうですでしょうか。この2部の中か、この第4部のところか。

○事務局（教育総務課）

財政的なシミュレーションの話になってくると思います。実際、財政試算を財政課に依頼して作ってはいます。この会議には出していない。といいますのは、本当に推計の推計です。例えばバスを何台走らせるとか、統合中学校は何校になるとか、それによって全くシミュレーションが変わりますので、ある程度試算のできる条件が整わないと、きちんとした数字が出せないのです。そういう意味で答申までに財政議論は難しいと思っています。

ただ、今回のバスの件について、この答申案では15頁の最後、「バス運行にかかる財政負担」というところに、若干、考え方を明記しています。「統合中学校の整備費とバス運行を含む維持管理費の総額は、現3中学校の維持費、施設改修費の総額を下回るよう想定することが必要」であろうと。これは実際どのぐらいの中学校の整備費がかかるのか、それから、財政部長は把握していると思いますが、現状の中学校をそのままずっと維持することによってどれだけの費用がかかるのか、それとの比較になってくると思います。

この部分は、より詳細な計画が出来たときに比較分析する必要があり、その考え方として、この15頁に触れている。このように考えているところです。

○会長

15ページの表10の一番下のところ、ここで書いているということですが、J委員いかがですか。

○J委員

現3中学校の維持費、施設改修費は維持すればかなりかかります。だから、減らしていこうというものなので、減らした上で、それは当然、統合案なので統合した上で、さらにコストが下がるかどうかというのを考えるべきと私は思います、今の3校維持や4校維持と統合して下がるのは当然なので、そこを元取るかわ変わらないぐらいの金額までだったら大丈夫みたいな表現はどうかと私は思います。

○事務局（教育総務課）

この部分は、しっかり数字で議論しないといけないと思いますので、今、数字のない中で、判断がつかないと思いますので、今の段階では、この書きようしかないと思います。ただ、誤解がないように申し上げますが、今回のあり方の問題を考えるのは、3中よりもコストを下げるためであるとか、そういうことでは決してありませんので、そこは誤解のないように理解いただきたいと思います。その部分についてはこれから市当局とも合わせて議論していくところになると思いますので、どうかその辺はこのぐらいで。

○J委員

その送迎に関して、議論をしなくてもいいのですね。

○事務局（教育総務課）

送迎についてはしっかり市の中で協議していきたいと考えております。

○会長

それではそれ以外のところでこの第2部について、A委員お願いします。

○A委員

話の本筋から外れますが、ちょうどバスの話が出ましたので。バスを運行することになると、スクールバスだけにしないで、今、高齢者の足の問題とかありますよね、免許返上とかで買物に行けないとかそういう人は、スクールバスで子どもを送り迎えするのは夕方と朝ですから、それ以外の時間にスクールバスを地域のバスとして一般住民も利用できるという、そのようにしたら加西の地域問題が一つ緩和できると思いませんか。そんな考え方はできないでしょうか。

○教育長

そういう話も中では相当しております。教育委員会だからお金は全然関係なくやっているということはありません。きちっとマネージメントしていかないと、続けてやれないわけですか

ら、じゃ例えばコミュニティバスとどうドッキングさせたらいいか、その足りないところをスクールバスがどうできるか、中学校のスクールバスだけれど、小学校でも昼間活用できないかを考えております。

ただ、答申のところ、そこまでのことを書き切れない。それはもっと具体化していく中できちっと詰めていかないと本当にいけないことだと思います。市全体の在り方みたいなものにも、学校の在り方って関わってくると私は強く思っている、それはこれから議論させていただければありがたいと思います。

さっき経済的なことを全く、何となくそういうことを何も議論しないで置いていかなものかというように言われたような気がしたのですが、基本的に教育に携わる者としてまずお金は考えません。教育やっている側の矜持と思っている。ただ、そのままでは現実的には立ち行かないということもよく分かっています。そこでいろんな工夫をすることによって、認めていただいた案を現実化していくかっていうことは、それは相当シリアスに考えていきますし、話し合いもしていかないといけないと思っています。

スクールバスが結構高つくから、もっと安くできる方法はないのかというのは、それはやっぱりもっと次の段階で議論すべきことではないかと思っています。今はそれをどのような方向で進めていくのかという考え方を合意していただければと思っています。

○会長

では、ほかの観点からとかでも、次もあるんですけど。L 委員お願いします。

○L 委員

小学校の再編ですが、令和8年から宇仁小学校が複式学級、西在田小学校は令和7年から複式学級に当たるということで、複式学級に当たる保護者にどんな考えとか意見とか思いを持っているのかを知るために、アンケートを取ってきました。

泉よつばこども園でアンケートを取りました。対象者は今後、複式学級に当たる全保護者世帯で、こども園の協力の下、配布しました。配布数は12世帯。回収は11世帯。意見をたくさんいただきましたので、この場を借りてお伝えします。

アンケート項目は、今後の小学校の在り方として望ましいと思われる項目にチェックを入れてもらいました。1「小学校を存続し複式学級を希望」、2「他校との統合を希望」、3「分からない」、あと、自由記述式でどんなことが気になるのか、どんな学校にしてほしいのかを聞いています。集計結果は、小学校を存続し複式学級を希望する件数が2件、他校との統合を希望するが8件。分からないが1件でした。

「どんなことが気になりますか」という質問に対して、「小学校を存続し複式学級を希望」される方の意見として、「先生の人数配置はどうなるのか」、「西在田小学校は何年先まで複式学級で存続できるのか」という意見がありました。

「他校との統合を希望」の方の意見として、「通学時に長距離を一人で歩いて帰ることの安全面が心配」、「少人数だと、合わない友達がいたときの逃げ場があるのか心配」、「子どもたちの社会性が少人数できちんと育つのか」、「高校や大学などできちんと自分をアピールしたり、

委縮せずに過ごせるのか」、「基礎人数が少ないと学力も低下しそう」、「複式学級にしても、全校生徒の数が減少しているので、それなら他校と統合し一学年のクラスで学んだほうが良い」という意見。

「どんな学校にしてほしいですか」という問いに対して、「小学校を存続し複式学級を希望」する方は、「児童1人1人に目が届き、対応してもらえる学校」。

「他校との統合を希望」される方の意見として、「人数が少ないよりも少しでも多いほうが、運動会やほかの活動でも活気が出ると思うので、こども園のようにたくさんの子どもの学校が良い」、「付き合う友達や活動などの選択肢の多い学校が良い」、「地域とのつながりのある温かい学校」、「通学時になるべく一人で帰ってくるような安全面で心配の少ない学校」、「子どもたちがどんなふうに生活を送っているのか保護者が知る機会の多い、風通しの良い学校」、「子どもたちが切磋琢磨し学べること」、「こども園で仲よくなった友達と長く付き合えるようにしてほしい」、「刺激を受け合いながら共に成長してほしい」、「1学年ずつ授業を受けることができ、年齢に合った学びをできる場であってほしい」、「子どもたちが伸び伸びと過ごせてたくさんの経験ができる学校にしてほしい」、「いろんな行事があって、運動会も順位がついたり、勉強も楽しんで、思いっきり遊んで、小学校のときにしかできないことをたくさん楽しんでほしい」という意見を頂いています。

そのほかに、「小学校を存続し、複式学級を希望」する方の意見で、「西在田小学校では縦割り班で活動や遊びをしているので、学年を越えて仲よく良い影響を与え合っていることは良いことだと思う」。

「他校との統合を希望」の方のご意見で、「他校と統合するにしても、複式学級にするにしても、生徒数が減って通学時一人で帰ってこないといけないのは心配。親も仕事などで送り迎えは難しいので、通学バスを出すなどしてほしい」、「中学校が統合するのであれば、小学校も統合してほしい。4校一斉に統合が難しければ、宇仁、日吉、泉、西在田でも検討すべき」、「祖父母世代の意見も大事かと思うが、今子育てしている人の声をしっかり聞いてほしい」、「人数が少ないことで体育や活動の制限が出てしまう。こども園が統合したのだから、小学校統合も前向きに考えるべきではないか。何れ統合するのであれば早いほうが良い」、「こども園で仲よくなり集団生活にも慣れ、小学校では離れ離れとなり人数も減り、中学校でまた合流」、「中学校は統合案が出ているのに、小学校は別々なまま複式学級」、「小学校も中学校も統合し、幼小中一貫教育を希望」、「他校との統合になれば母校がなくなる寂しさもありますが、ある程度まとまった人数で集団生活を送るほうが、子どもたちにとって良い勉強になる」、「子どものうちだからこそ、縦のつながり、横のつながりの経験をたくさんしてほしい」という意見を頂いています。

アンケートに回答いただいたのは5年か6年後の小学校の保護者に当たる方なので、その意見を大事にこれからも考えていってほしいです。実際、小学校を維持するのに何人ぐらいの児童数がいれば維持できるのかとか、具体的な数字を聞けたらうれしいと思っています。

それと、9頁の「11校存続と学園構想」のところで「学校間の共同授業や学校施設の共同

利用(例えば運動場とかプールとか、体育の授業も一緒に行くなど)」と書いてあります。実際、どこと一緒になるかは分かりませんが、そういう行き来の機会があるならもう統合してもいいのかなと思いました。保護者の考えを考慮して、これからまた話し合いを進めていけたらと思っています。

○会長

短い時間でそういう意見も聞いていただきました。

○OB 委員

そのことに関連してなんですが、今、小学校の統廃合について、当初から小学校の校長会の総意として、小学校の統廃合が望ましいということをおっしゃっていただきました。

デメリットの解消、緩和という話もしながら、本当にリモートあるいは合同授業を行う運動場、施設の共同利用とかがね、実際に出来にくい状況で、本当に解消されるのかというと、なかなかそのようなデメリットは解消できない。

その9頁「11校存続と学園構想」の1つ目です。「小学校は小規模校の課題の解消を図った上で、11校を存続させます」と断言してあります。実際には今まで私たちが話をしてきたのはデメリットを緩和することはできても、解消は難しい。「解消を図った上で」というのは本当にできそうな、そのような書き方ですが、この文章も「解消、緩和」あるいは「緩和」という言葉に直したらどうかと思います。文章の中にも「解消、緩和」というように、並列も幾つかありますので、ぜひともこの部分も訂正いただけたらありがたいと思います。

○会長

修正をまたお願いできたらと思います。L委員が貴重な意見を拾っていただきました。この辺りは「地域協議会の設置」で書かれている11頁で、「複式学級が始まる2年前」から議論を行うことですが、もうその時間がありません。7年度だと、もう来年度から協議の期間ということになっていきます。その際、11世帯に聞かれて、2と8で意見が分かれたとのことですが、それぞれの意見の違いも丁寧に考慮していただきながら、そちらのほうで検討をしていただくことになるかと思います。K委員お願いします。

○OK 委員

私がこの委員会に入る際、これは学校の統廃合を議論をする会だと思っていました。実はそれも当然中身にはありましたが、やはり私らのように高齢になりますと、地域と学校というのは一番関心のあるところだと思います。そういう中で中学校は2校にして小学校は存続すると。当初より、小学校を残すということは、これはいいことかなと。中学校を二つにするというのも、今の生徒数に合わせて、部活の環境をこの数字で見ますと、これは統合しないとしようがないなと。統合するなら、もう1校でいかがでしょうかって当初、僕なりに思いましたが、よく考えれば2校あってお互いに競争というよりも、いろいろとスポーツも含めて交流するのはいいことかなと。やはり一つの考えがあっても、皆さんのいろんな意見を聞く中で、ああこれはいいなあというふうなものが、私の感じた考えです。

今も出ておりましたけども、小学校が複式学級になるところについては、保護者の意向に沿って検討するというのがどこかにあったと思います。こういうのは柔軟な対応であると思います。中学校につきましても、バス通学で無料で行くという、こう言われたら、なかなか反対しづらいと思います。ですから、柔軟に考えながら、かつ中身をよく見ますと、まあまあいい形の答申案が出ているのかなと。ただ、答申案というのは、ある意味ではぼやっとした抽象的な部分もあるのが答申案であって、その一方で、具体意見、こういう意見もありますよというのを付け加えるのが、答申案ではないかなと思います。ですから、やはり議論する中で最終的には賛否を問うて決めるのは一つということですが、今までの議論を持ち寄りますとやはりおおむねで言ってもいいのではないかなと。

教育論までは私は、もうそんなことは分かりませんが、一つの学校の在り方、存続というのは、これはいい案だなと。ただ、バスがどこに行くとか、また、土地の買収は、5年先に建てるということですが、なかなか難しい話になると思います。そんなことを思いながら、私なりの感想です。

OB 委員

すみません。あと1点だけよろしいですか。

O会長

B委員お願いします。

OB 委員

「複式学級への対応」の最後のところです。「地域協議会においては、保護者や地域住民に対し、問題提起を行った上で、今後の方針や対策・具体的な計画などについて協議を開始します」と書いてあります、保護者や地域住民に対し、問題提起を誰が行うっていう主語がないんですけど、下のほうを見ると、地域協議会のメンバーは「保護者、地域の代表、学校運営協議会」、それから、「小学校教職員、加西市教育委員会等を想定します」と書いてあります。誰に対して誰が問題提起を行うのかっていうのは、どのように考えておられるかお聞します。

O会長

この点は事務局いかがでしょうか。

O事務局（学校教育課）

問題提起につきましては、この答申までの検討委員会の中で議論をいただいた内容も踏まえ、事務局が所管します。提案を事務局がするのか、あるいは、地域評議会を設置することを表明する段階で、地域から声が出たところを事務局が聞き取った上で進めていくということになるので、保護者の方か、地域の代表か、あるいはコミュニティ・スクールのメンバーになるのかなと思います。例えば先ほど L 委員が独自に集計した意見というものが、問題提起の基点になると考えております。

○会長

文言はいかがなさいますか。このままにしておきますか。もうちょっと今の言われたようなニュアンスも入るような形で書き直されますか。

○事務局（教育総務課）

「地域協議会においては」云々の文章の主語は、地域協議会になると考えています。ただ、地域協議会は保護者の代表や地域の方の代表だけなので、事務局を含めた地域協議会が主体になって、より広く保護者や地域の方に説明をしていく形をイメージしていただければと思います。

○会長

よく分かりましたので、そのニュアンスをもうちょっと分かりいい言葉で加えてもらったらよろしいかと思えます。

○事務局（教育総務課）

分かりました。

○会長

私のほうから1点追加でお願いします。9頁の中学校の最後の⑤ですが、中学校再編に伴う魅力ある学校づくりということで、「新しい学校、統合中学校をいわゆる魅力的なものにしていきましょう」と書いてあります。併せて、統合中学校の取組が、北条中学校のより魅力ある学校づくりにもつながるような内容にいただければと思います。

というのは、新しい中学校はいいものを造ったけども北条中学校はそのまま、というのではなく、統合中学校の試みが、北条中学校をより良くすることにも活かされる。それによって、加西市全体の中学校の在り方が良くなるような、何かそういった工夫についても検討していくといった内容にいただければと思います。

○OD 委員

先ほど会長が言われたところは、私もいつ言ったらいいかずっと迷っていたところです。この前、前回会議の後にちょっと軽く報告と、「もしそういう中学校の案があれば意見が欲しいです」という手紙を園を通して出してもらいました。取りあえず案はほとんど入ってなくて、入っていたのは先ほど出していた南北案とか東西案のことで、少子化なので統合には大賛成ですが、北条中と他の中学校というのは非常に効率が悪い気がするということで、生徒の管理とか運営のことを心配されている方がおられました。それしか意見は入っていなかったのも、私個人としていろんなお母様方に聞いてみました。いろいろな意見を合わせて考えたところ、鎌田中学校のような中学校の中に一つのコミュニティがあることで、子どもたちがいろんな人と関わりを持ち、社会に出たときに一番大事とされるコミュニケーションスキルが養われることを望んでおられるということを感じました。

その中で私もいろいろ案として出してみたところ、再編とかで中学校が新しくできたときに、療育施設が増設されていたらいいなと正直思いました。これからは先ほど出ていた多様性とか障害者という立場の子どもたちが社会に出るためにも、健常者と言われる子どもたちとの差を埋めることができるなら、社会に出やすくなると思います。

まだ、正直差別の目ってというのがあって、そういった差別の目を変えたり、いろんな立場の人を受け入れるということを自然に学ぶにも、もし中学校が新しくできたときに施設があると受け入れやすくなると思います。

道徳とかいろんな授業があると思いますが、そこに言語療法士の先生とか理学療法士の先生とかが関わりを持つことで、どの健常者の子どもたちにも関心を持ってもらいやすいのかなと思ひ、障害を持つ子も持たない子もお互いを受け入れる、支え合うということが、とてもこれから大切になるのかなと話をしていて思いました。

どんな子でもいろんな経験とか体験からたくさんのかを学び育っていくわけなので、多感な時期だからこそ支えるような場所として、生かせることができればよいと思います。新しい中学校も、北条中学校も、そういうような関わりができるようなものを特別な感じで持つと、日本に1個しかないというか、そんな感じで出来るのかなとも思います。

○会長

いろんな機会に話ししていただいてありがたく思います。D 委員からは療養施設を併設してみてもというご意見でした。この辺り、どこまで具体的な記載を答申に盛り込むかという点については、検討しないとイケないかなと思います。ここで⑤の中頃が一番上から3行目、「それによって、特別な支援を要する生徒や不登校傾向にある生徒に対して、支援できる指導体制は十分に配慮しなければなりません」ということは書いてありますが、この具体的なもうちょっと突っ込んだ提案であったと思います。この答申でどこまで書くかっていうのは、その辺り事務局いかがでしょうか。

○事務局（学校教育課）

会長が言われたようにどこまで盛り込むかということは、やはり考えていかなければならないところだと思います。ただ、中学校再編に伴う魅力づくり、魅力ある学校づくりという意味では、単に中学校を中学校の施設のみならずそういった可能性を残したいなと。これは視察に行った際の各委員さんの思いでもありましたし、視察の場所を決める際、この検討委員会の中での議論を踏まえてということでしたので、今後どういった施設を、事務局の中でも提案しながら考えていきたいと思ひます。ちょっと抽象的な内容になるかもしれませんが、こういったものも新設する際のいろんな議論の場で意見を頂けたらと考えています。

○会長

細かいことですが、その下の「小学校の再編」について、中学校はね、「令和8年度を目標に」という時期が書かれていますが、小学校について時期的なことはどこかに書かれていたのでしょうか。できるところから、やっているところもあったりするという話もありました。

○事務局（教育総務課）

学園構想の部分ですね。

○会長

そうですね。

○事務局（教育総務課）

段階的にスタートでしょうか。できるところからという形になります。その文章を含めたらいいでしょうか。

○会長

そうですね。それも段階的にできるところから、答申ができ次第やれるところからやるっていいことですね。分かりました。また後でやりますので、次、第3部にまいります。第3部の12頁からこの視察報告までの14頁について、ご意見ご質問等がありますでしょうか。A委員お願いします。

○A委員

第3部の「地域との連携による学校づくりについて」の中で、「リカレント教育」という言葉は全然出てこないですね。この答申案の「はじめに」の4行目ですか、「第3期加西市教育振興基本計画『郷土を愛し豊かに未来を拓く人づくり～人生100年時代を生きる～』の基本理念に基づき」となっておりますけれど、まさに人生100年時代がそろそろ本当に現実化してきて、そういう時代になってきました。これから老後を何十年生きるわけです。そのときに小学校というのは昔から地域の中心に生を持っているところです。せっかく学園構想で小学校を残すのであれば、リカレント教育は社会教育課だけの話じゃなくて、やはり学校でも取り組んでたくさんの老人、シニアの人がいますので、そこでいろいろ学べる場所にしてほしいです。

STEAM教育となると、いろいろなリベラルアーツといいますが、教養部門っていうものも充実してくるということですので、そこは子どもだけでなく高齢者がそこに行って学んだり、いろんなものを交流することも大事ですので、そういう場所にならないかだろうかと。学校は図書室もありますし、音楽室も、美術室もある。そういう面では文化的なものをたくさん持っています。文化、芸術の拠点でもあったと思いますので、このリカレント教育の拠点の一つとして生かしていく。残した小学校をそうするというので、私は言葉を入れたほうがいいと思います。

もう80ぐらいだと暇を持て余している方が多いですが、そうするとね、元気なのでいろいろネットやギャンブルやフェイクニュースにはまってしまって、そういうせっかく与えられた時間を有意義に使えないということになります。これは本当に80歳、90歳からさらに、もう人間死ぬまで歳は関係ないですから、学ぶと、学べる環境があるという。これも加西市の大

きな魅力になると思いますので、リカレント教育という考え方はぜひ入れていただきたいなと思っております。

○会長

G 委員、関連してですかね。

○OG 委員

はい。関連して最近よく思うのですが、私ももう高齢者になって、小学校の授業参観に行くと、「ああそうか」って「何か自分が見ているだけでも学ぶことがある」と。今それ、A 委員が言われた「子どもたちと地域の人と一緒に学ぶ時間」、全部とは言わないですけど、そういう時間は本当に必要だと思っています。

もう一つは、私はよく学校の先生の職員研修に行かせてもらいます。その職員研修も先生だけじゃなくて地域の人にも「今回こんな職員研修するから地域の人も来てください」と。私がジェンダーの話をしに行くときとか、地域の人たちも一緒に学んでくださいって言いますと、子どもさんに関わってくださるおじいちゃん、おばあちゃんたちが、本当に「おまえ男やろ、泣くな」って言われるのがなくなるかなって思っていたりします。リカレント教育ってすごくハイスペックなことのように感じるんですけど、そうじゃないなって最近思っています。

先生にとっても地域の人と一緒に、例えばワークショップをしたりすると、若い先生が多いので地域の方の意見なんかを聞いて「ああ」って学んでもらえること、学校ではない社会に触れていただけるっていうこともすごく大きい。そういうことも視野に入れていただけたらなと思いました。

○会長

公民館という形はあっても、近い教育施設という意味もあって、学校を重要な大人、シニアの人の学びの場みたいな教育の場にもしていただくっていうそういうご意見ですけど、これは現状いかがでしょうか。ほとんどどこもそういう使い方はしていませんよね。加西市の場合は、校庭をお貸ししてグランドゴルフをやっていただくというところまでなんでしょうか。「リカレント教育の場としての学校」みたいな視点は、これまで小中ではあまりやっていないですかね。その現状も含めて何かお考えがあれば。

○事務局（総合教育センター）

大変貴重な意見を頂いたと思います。職員研修等の件も新しいというか、「なるほど、そういう考え方とかそういう使い方は非常にありがたいな」と思っています。現状は、主に公民館活動が中心になっているので、学校と一緒にということになると、地域学校協働活動としてのゲストティーチャー的な形で、農業体験のお米作りと一緒に活動したり教えていただいたりとか、郷土学習として郷土のガイドとか郷土の特産物を一緒に作る事とか、そういう協力体制はたくさん各小学校が整えております。それらを広げていったり、また、活動の仕方を変えていくことは、これからの教育を考える上で、かなり可能性を秘めていると思います。

12頁のとおり、コミュニティ・スクールを令和5年度より始める体制で、今、準備を進めております。来年4月からなんです、今のような話がこのコミュニティ・スクールの中で出てくるのではないかと期待しております。地域と学校が一緒になって議論が進み、一緒にそういうものが立ち上がっていくことができればいいと考えています。

ただ、新しい中学校の施設も含め、どの辺りに入れるかっていうのは、これからのまた具体的な議論が必要で、公民館とか、未来型児童館とか、様々な兼ね合いも含めまして、考えていく必要があると思います。

○会長

教育長をお願いします。

○教育長

リカレント教育とか、子どもたちと共に学ぶ小学校とか、大変ありがたい提案が今あったと受け止めております。今、各学校に STEAM ラボとか、そういうものもつくろうとしています。それは校長先生の方針もありますので、教育委員会から無理やり押しつけることはできないんですが、各学校にそういう新しいテクノロジーを例えばおじいちゃんおばあちゃんが来て「わあ、すごいな、わしもやってみようか」と、そうになったらいいなと私は夢想しているわけです。それをやるには越えなくてはならない様々なことがあると思いますが、できれば、できない理由を探さないで、どうやったらできるようになるか考えていきたいと、今とてもいい提案を頂いたと思っています。

子どもたちが地域に学ぶということは今までにもたくさんあります。本当に加西市はよくできて、いっぱいあっちこっちでやっていただいています。そうではなくて、学校をそういう高齢者も含めた地域の学びの場にしようではないかというこの考え方、本当に素晴らしいと思いますので、きちんと真面目に実現するように考えてみたいと思います。

○会長

それでは、そういった中身でも少し反映できるような文章にさせていただければと思います。第3部のところはほかもいかがでしょうか。

それではこれまでということで、第4部、最後の部分になります。送迎バスの運行については、先ほどからも議論になっていますが、追加でもしあれば、懸念される保護者が多かった内容ですので、これも足してきちんと書いておくということが求められていると思います。いかがでしょうか。よろしいですか。では、第4部については特にご意見はないということで先に進めます。

それでは改めまして、この最初の鏡文から第1部、第2部、第3部、第4部の内容を通して追加で。M 委員をお願いします。

○M 委員

アンケートですが、立派なアンケートの結果報告で市のホームページの教育委員会にも記載されております。答申案の中にアンケートの結果は、いかがなものかと思いますが、これだ

けの立派なアンケート結果が出ているので、少しは答申の中に反映していただくほうがいいのではないかと思います。

○会長

これは資料みたいな感じでしょうか。アンケートに対してどういう形でも載せられたらということですね。確かに。その可能性はいかがですか。

○事務局（教育総務課）

ご提案ありがとうございます。間に挟むのか、それとも別添なのか検討しながら、アンケートをせっかく、まとめておりますので、それも多くの方に見ていただけるような形を工夫したいと思います。

○会長

そういった全体の構成についてもご意見いただいても結構です。各部の追加がありましたら、N委員お願いします。

○N委員

2点お願いします。1点目は、この素案と全然関係ないですが、前回は話をしました。私は中学校の校長会を代表して来ております。この話で出た内容につきましては、実際に聞いていたりもしていますが、改めて中学校の校長会で、話ししながら協議しています。その中で出てきたのが前回の制服の問題であったり、あと体操服の話もありました。

前回の後の校長会では、それこそ中学校は地域部活動で、部活が地域にという流れが出てきています。そのことについても、今後新しくできる中学校の校区が大きな校区になって、その中でどんなことができるかを今も一緒に検討していますので報告させてください。

それから、2点目はこの素案に関する事で1部の最後に話ししようと思ったんですが、教育長が上手にまとめられましたので、私も同じ思いでして、それこそ市長から諮問を受けて、このことについて協議してくださいと、それについてこんな話し合いをしましたというのがこの答申だと思います。だけど、A委員の話を聞いて「本当にそのとおりだな」と思ったのが、最初の教育の在り方について、しっかりと子どもたちの人数が減っているから統廃合とかではなくて、スタートはやっぱり加西の教育を今後どうしていくのかっていうようなところからスタートしているわけですから、そのことについてはここに書いていた内容だけではなくて、教職員も意見を当然聞いていますし、管理職の意見も委員会は聞き取ってくれています。また、勉強会等々もしましたので、その内容についてもここに挙げていくのは、やっぱり大事なことだと思いました。

E委員から各学校のいろんな思いであったりとか、「こんなことをめざしているということも載せてもらったら」と、意見をいただきました。全部載せるのは無理かもしれないですけど、みんなこの学校も同じ思いで、加西の子どもたちを大事に大事に思って育てておりますので、

その内容がこの最初のところに書けたらいいなって私も思いました。「それでいいですね」って教育長も言われましたので、そうなると思いますので、私も同じ思いです。意見だけ伝えさせてください。

○会長

ありがとうございます。E 委員お願いします。

○E 委員

地域部活動の話も出たので、私がこの会に参加しながら思っていたのは、統廃合後の学校の利用についての話がなかったかなと思います。加西市の体育館は、すごく小さい勤労体育館というすごく小さい体育館が1つで、大会とかを他の市に委託していたり、今の協会でもそういうことがあるので、せっかく体育館が今残っている中学校は、耐震構造のことは詳しく分かりませんが、もし残せるのであれば、そういった体育館の活用もまた考えていただけたらと、スポーツをする者の意見としてお願いというか、それを言わせていただきたいと思います。

○会長

確かにこの答申案では中学校の2校統合案で、新しい統合中学校を造りますとは書いてありますが、廃止になる中学校の施設利用については何も書いていないですね。別途検討するぐらいのことで書いておってもいいかもしれないですね。それではK 委員お願いします。

○K 委員

全く別の話ですが、何か参考になればとちょっと申し上げます。アスティアかさいができて19年になります。あれはなぜ出来たかということ、北条駅前開発が発端なんです。

その前に三木山崎線という道路があります。それが北条鉄道を横断するというので、渋滞が発生し、丸山公園の下から今、アスティアかさいの前を通る道、これが三木穴栗線になりました。その三木穴栗線が3年前に完成して、やっと北条鉄道を含めた北条駅周辺の開発ができたようなものです。

途中、図書館が遠いということで、図書館をどこに建てるかという話も出ました。私は静かな別棟の玉丘公園の中がよいという考えを持っておりましたけれども、その当時、県から建設部長が来られて、なかなかの積極的な方でして、「今からの図書館は人が賑わうところに造るほうがいい」と言われ、そういうところを視察にも行きました。それで、懐疑的な気持ちを持ちながらも、今の図書館があるのですが、結果的に皆さんはどう評価されているか分かりませんが、私もいろいろ議論しました。

この間、かつてのその部長と出会って「山下さん、あのとき、いろいろ言うてたな。それでも、まあいいものができとるで」と言うのです。「あの駅前開発が出来てなかったら、どうなっていたか分からへんで」という話もしました。この学校構想も大変な事業です。5年先という話がありますけども、今ちょっと方向がここで出て、これから枝葉をつけて、しっかりと加西らしい教育をやっていただきたい。まあそんな思いで私はおります。

○会長

では、ほかにないようですので、また、H委員、最後に全体を通してご意見をいただければとは思いますが。

○H委員

今日の最初の議論に遡ってまいりますが、確かにありがたい姿の議論ってどうだったのかなと、私も振り返りながら聞いていました。今、遡って第1回の議事録を見ていたのですが、もしかしたら事務局からの説明とそれに対する質疑が中心になって、委員1人1人のありがたい姿、まちの姿とか教育の姿っていうのを出し合い足りていなかったのかもしれないと思いながら聞いていました。

皆さんの判断にお任せしたいと思いますが、本当はそういうことを出し合うところからスタートできていたら良かったのだろうかと思いつつ、もう時間は戻らないので、もし事務局として今までの皆さんの、私を含めてかもしれませんが、発言では書き込むのに不足するようだったら、また以前やっていたように委員さん方からありがたい姿をコメントとして出してもらうのも、参考にはなるかなと思いました。

というのは、第1部冒頭の教育のありがたい姿だけではなくて、途中、話題に上った第2部の9頁。ここは中学校再編に限定してはいますけども、魅力ある学校づくりの部分であるとか、最後、第3部「地域との連携による学校づくりについて」の部分も含めて、それぞれ言い足りてないことがあれば、出していく作業をしてもいいのかなと思いました。

今から要望みたいなものだけ出ても事務局としては取扱いが難しいかなと思うので、ありがたい姿を自分たちも一緒に担っていきたいという思いとともに出し合うことができれば、きっと次につながるものになると思いました。特に第3部は私ももう一回読み直して、多くは現状の説明になっている部分があって、これからの部分っていうのをもう少し書くこともできるのでと思うので、もし材料が足りてないようであれば、まだ全く間に合わないことではなく、せっかく、この委員会として答申を出すのだと思うので、してもいいのかなと思いました。

併せて、答申が出た後にまた市民の皆様と話す機会もあると思うので、またそういうところでも、この答申がまとまる前に言うところちょっと急ぎ過ぎですけど、より良いものとかを具体化していく上で、思いを出し合うような場づくりができるといいと思いました。

○会長

確かにありがたい姿、これは第1回の委員会で扱ったところですが、十分に議論がなされていない側面があったと思いながら伺いました。そこも含めてこの答申について、ぜひ追加で書き入れたいことがあれば、コメントで出してもらえればという提案でした。事務局の立場からいかがですか。

○事務局（教育総務課）

間に合うかどうか分かりませんが、急いで皆さんにコメントいただくようにしたいと思います。そのコメントが丸々そのままということはないかもしれませんが、言葉としてフレーズとして皆さんの言葉が反映できたらいいと考えております。急いで準備したいと思います。

この1週間ぐらいでどうでしょうか。

○会長

この1週間以内で、出してもらわないといけません。

○事務局（教育総務課）

メールか、何かできるような形で考えてみたいと思います。

○会長

H委員お願いします。

○H委員

どちらかという今までの議論の中から拾って作られたってということで、お困りかなと思いましたので、足りないところを補うのに必要であればという趣旨で申し上げました。十分足りているのであればそれでもいいかと思います。

○教育長

皆さんが考えていらっしゃることを言っていただくというのが一番大事なことで、ただし、ゼロからの議論はやめてください。もうこの今の段階で、前向きに、例えばA委員は過激なことを言いたかったら、過激なこと言ってください。それはそういうことを全部やり聞いた上で、加西市の教育方針というものは決まるので。

それで、「その代わり言う以上、みんな担ってくださいよ」と、「腹くくって言ってくださいよ」って私は思います、それで言うだけでいいことがあれば、どんどん前向きにお願いします。

○事務局（教育総務課）

できるだけ早く準備させていただきます。

○会長

それでは、これまでの議論に積み上げていくという形での建設的なご意見を頂ければと思います。では、本日の会議も激論のため2時間を越えています。本日の委員会の予定はここまでにさせていただきます。ありがとうございました。会議次第4のその他については事務局に戻します。よろしくをお願いします。

3. その他

○事務局（教育総務課）

その他については特にございません。

4. 閉会

○教育部長

皆さんお疲れさまでした。ありがとうございました。最後、H委員が言われように、さらに皆さんのこの教育のあり方という論点でのご意見を私もいただきたいと思っております。タイトな中での作業となりますので、納期もできるだけ守ってあげてください。ということでご協力をお願いします。

今回、冒頭の教育のありたい姿の第1部について意見をたくさん頂きました。ある意味で目からうろここといいですか、やはりここを我々はしっかり述べないといけないということで、少し反省もしながら補強していきたいと思えます。今回のこの作業も、子どもが減って少子高齢化、人口減少、いや応なしの、じり貧状態でやろうとしているものではないんだと。あくまでもこの現状において持続可能な教育の姿で、中学校、小学校をどう構えるんだということを見定めたいという考えにそもそも立っておりました。

前向きな将来、持続可能な教育の姿というイメージをお伝えできるものにまとめていきたいと思っております。日にちがあまりないですが、精いっぱい答申案を次回に向けて整理していきたいと思えますので、今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。

次回は8月29日月曜日午後2時からとなっておりますので、何とか都合をつけてご参加ください。本日はお疲れさまでした。ありがとうございました。